

せせらぎ通信

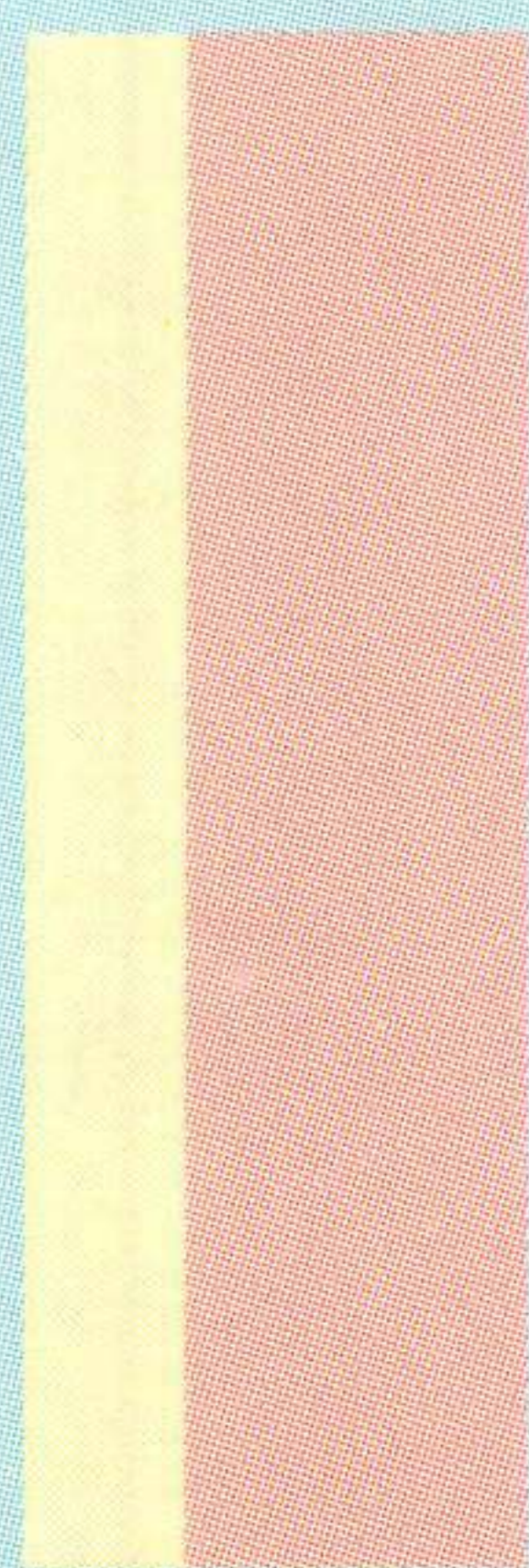
第3号

あずさ施設組合情報紙

平成9年3月24日
発行/あずさ施設組合
電話 47-1427



かたくり



構成市町村トピックス
あずさ便り
投入量推移 (将来推計)
せせらぎ豆辞典
ちょっと一服

トピックス



松本市

●余熱利用施設建設工事が起工

余熱利用施設
なっています。

建設工事の起工式が昨年一月一八日に現地で行われました。

この余熱利用

施設は、新焼却プラントのごみ焼却に伴って発生する余熱エネルギーを有効利用して、屋内温水プール・保養施設・屋内テニスコートを整備するもので、工事費は約四六億円と

なっています。

新焼却プラントの稼働に合わせて平成一年三月の完成予定で現在基礎工事が進められており、平成九年度から本体工事に着手します。

保養施設を四〜五階に配置して北アルプスを眺望する露天風呂を整備するほか、流水プール・造波プール・チューブスライダー・滝のスライダーなど、県下一の屋内温水プールをめざして建設がすすめられています。

●順調に進む新焼却プラント建設工事

新焼却プラント建設工事は、関係者のご理解とご協力により順調に進んでおり、高さ約六〇メートルの巨大な煙突が逸早く姿を現し、現在工場棟の築造工事が行われています。工事と並

行して焼却炉や破碎機などの機械類の製作が、メーカーの工場できちんと進められています。本工事には約二四〇億円の工

事費が投入され、平成八年度末

で約三六％の進捗率で平成九年度から管理棟・車庫棟及び外構工事に着手する計画です。

松本市及び周辺五町村、合わせて約二五万人のごみ処理を行うため、平成一年三月の完成に向けて、急ピッチで工事が進められています。

波田町

●波田海洋センターオープン

～温水化で年中利用可～

梓川沿いの松本市との境付近に、町民待望のプールが、B & G財団波田海洋センターとして、昨年六月オープンしました。

海洋センターは、屋内プールとして、屋根にトップライト方式を取り入れ、太陽光線をふんだんに採光でき、室内は明るく屋外感覚で遊泳が楽しめます。

二五メートルプール、幼児用プールとジャグジープールの三つがあり、子どもさんや親子、勤め帰りの方など多くの方々からご利用いただいております。

このプールのもう一つの特徴は、温水化により一年中利用できる施設となっており、特に冬期間には、周辺の市町村からの利用も多く、スポーツ団体等の冬場のトレーニングにも利用され大変好評です。

センターには、専門の指導を受けた指導員がおり、利用者へのアドバイスや、アクアビクス教室等を利用者の要望を取り入



れて開催しております。現在、教室は町内者を対象にしていますが、今後は広く町外の方も交えて開くよう考えています。

プールの横には、芝生広場もあり、プールの利用後の休憩や公園施設としても利用でき、今後は、隣地の扇子田公園の整備も平成九年、一〇年で計画されており、プールを始めいろいろな楽しみ方ができる施設をお見せできると思います。

組合構成市町村

平成8年度の

山形村

●ふれあいドームオープン間近

村の中心ミラフード館北側に昨年八月から工事を進めて来ました多目的スポーツ施設「ふれあいドーム」が本年三月完成の運びとなりオープンが間近になりました。

この施設は村のシンボルの建物として、高さ一六メートル直径四六メートルドーム型をしております。

アリーナ、事務室等面積は一千九百一七平方メートルでアリーナはアンダーパット付の二ミリ砂入り人工芝が敷きつめられております。

ゲートボール、テニスなら二面フットサルなら一面の使用ができ、色付の砂でラインを引くことによりいろいろな競技をすることもできます。

強化ガラスの窓、防球ネットを備えておりますので野球、ソフトボール等の屋内練習場としての利用もできます。

自然採光を取り入れることも考え、天井には直径一八メートル



ふれあいドーム

ル採光窓を設けております。周辺には芝生公園を整備し、イベント広場としての活用を考えており、四月末から一般開放されます。

本村の人口も年々増加し、高齢化が進む中で、各年齢層の住民要望を最大限に取り入れた、ふれあいドームで子供からお年寄りまでが年間を通して利用でき集い、楽しむ中から住み良い村づくりが進むことを願っております。

安曇村

●生まれかわる河童橋

上高地といえば、シンボルとなった河童橋。

橋下を流れる梓川、大正池、田代池、眼前に迫る穂高連峰が脳裏に焼き付いています。

そして今、例年なら冬の深い眠りに入っているはずの上高地ですが、今冬はちよつと違います。

シンボルの河童橋が無いのです。それもそのはず、今冬河童橋は、五代目に生れ代わろうとしているのです。

初代の河童橋は明治二五年に架けられハネ橋でした。

以来、二代目が大正一一年、三代目が昭和三一年そして四代目が昭和五〇年にそれぞれ吊り橋で架け代えられてきました。

工事は昨年の一二月、環境庁が発注して進められており、静かな上高地に建設の槌音が響いています。

今冬の上高地は、雪は少な目ですが寒さが厳しく、工事に携わる人たちは防寒衣、防寒靴に



4代目河童橋

身を固めて頑張っています。

春の上高地開山祭には、新しい河童橋がお目見えする予定です。

この冬、シンボルの無い上高地を訪れた時、河童橋のあるべき場所に立ち天空に聳える穂高連峰を仰いでも、白砂清流の梓川を見下ろしても何故か上高地のイメージが湧かないのです。やはり、あるべきものがない風景は、さみしく感じ一日も早い完成が望まれます。

そして、今年も多くの観光客が登山者がこの橋を渡り、この橋で記念写真を撮って、それぞれの心に思い出を焼き付けることでしょう。

五代目の橋もこれ迄の橋同様風雪に耐え末長く愛される橋であることを願ってやみません。

構成市町村

平成8年度のトピックス

奈川村

●野麦峠オートキャンプ場

森林資源を有効に活用し、山村と都市との交流を促進することを目的に平成七年度より建設してきた「野麦峠オートキャンプ場」が平成九年四月末（テントサイトは六月）にオープンします。



この施設は野麦峠のふもとに設置され、一〇〇平方メートルのテントサイトが三〇区画、木造で四〇平方メートルのコテージが四棟、管理棟、トイレ、炊事施設などを備えています。料金は、テントサイト（オートキャンプ）が一泊三千五百円、コテージが一泊一万円、入場料

は一日一人、百円となっています。

今年の夏は緑豊かな野麦峠のふもとでのキャンプをご家族でお楽しみください。

●菜園付き長期滞在施設

都市住民との交流を促進することを目的に平成七年度より建設してきた「菜園付き長期滞在施設」が平成九年五月にオープンします。

この施設では、滞在しながら野菜栽培やさまざまな山村体験を楽しむことができます。区域内にはラウベと呼ばれる宿泊施設と菜園付区画が二四区画とそば打ちの体験や採れた野菜などを調理する施設（クラブハウス）があります。

施設内には指導者もいるので、日帰りでも山村体験を十分楽しむことができます。

お問い合わせは
奈川村役場建設課まで
(電話〇二六三一七九一二二二)

梓川村

●待望の倭橋完成

倭橋は明治四〇年一月に初めて木橋で架けられ、その後大正五年、昭和二年、昭和二〇年と改修工事が行われました。

昭和二〇年代末に、当時の梓倭両村が永久橋架け替えを関係官庁に陳情、昭和三四年三月に総工費六千七百万円、長さ二三〇メートル、高さ一二メートルのローゼ橋が完成しました。しかし、近年の交通量の伸びと車両の大型化などに伴い、交通に支障をきたし、架け替えが望まれてきました。平成元年一二月二日には松本市、梓川村、三郷村、堀金村で倭橋架替促進期成同盟会が結成されました。

又、平成七年度には豊科町、穂高町も同盟会に加わり早期架

●あずさの里づくり

平成七年度から村内の主要道路に、あずさの木に見立てた街路灯を一七〇基余り設置しました。自然にやさしく道路側のみを照らすよう工夫されています。



倭橋オープン

替促進の活動をしてきた願いがかない、予定より一年以上早い平成八年一二月三日、新しくなった倭橋が開通しました。平成三年に着工し総工費二九億円をかけた橋は、今までの橋の二倍以上の幅員と両側に歩道を設け、自転車や歩行者も安心して通行できます。交通の緩和、地域経済の発展に大いに期待されます。又、立田地区と小学校前には、ポケットパークを設け、梓の木を植樹し、特に学校前にはストリートバスケットのコート整備をし人々の安らげる「あずさの里づくり」をしています。

市町村別投入状況

区分 年度	投入量				投入比率
	し尿	浄化槽汚泥	生活雑排水	計	
2年度	75,742.9 ^{k0}	6,867.5 ^{k0}	— ^{k0}	82,610.4 ^{k0}	—%
3年度	73,843.8	7,828.4	—	81,672.2	—
4年度	69,499.4	7,375.2	—	76,874.6	—
5年度	65,704.5	13,316.7	—	79,021.2	—
6年度	59,069.3	12,336.8	—	71,406.1	—
7年度	52,924.6	10,094.5	5,085.2	68,104.3	100.00
松本市	35,913.5	6,843.4	2,238.5	44,995.4	66.07
波田町	6,535.1	967.7	1,190.6	8,693.4	12.76
山形村	3,877.5	346.7	418.0	4,642.2	6.82
安曇村	1,925.7	1,070.1	71.2	3,067.0	4.50
奈川村	342.8	163.2	49.5	555.5	0.82
梓川村	4,330.0	703.4	1,117.4	6,150.8	9.03

あずさ便り

● 投入量減少で負荷率八〇%を割る

平成七年度の投入量は、約六万八千キロリットルで設計能力に対し八〇%弱の負荷率でした。あずさセンターでは年々大きくなる余裕能力を有効活用するために、平成七年四月から「生

平成七年度の投入量は、約六万八千キロリットルで設計能力に対し八〇%弱の負荷率でした。あずさセンターでは年々大きくなる余裕能力を有効活用するために、平成七年四月から「生

● 施設の利用状況

あずさ会館は年間通して多くのみなさんから幅広くご利用いただいております。特にここ数年は増加の一途をたどっております。時々希望日に利用できないことがあり不便をおかけしていると思いますがご理解をいただきたいと思います。

またあずさ会館の予約と運動施設の予約は、今年四月一日から、利用される日の二ヶ月前に電話での予約が可能になりました。

多目的グラウンド、テニスコート、ゲートボール場はこれからシーズンを迎えますと、土日・休日はおおぜいの方々から利用をいただき、大変好評を得ています。

特に縦、横、一四五メートルのグラウンドは野球でも一度に四面の利用が可能で、松本平一帯でもあずさ多目的グラウンドにかなう施設は他にないと思えます。毎年行われる大きな大会はもちろん、公共の訓練の場としても利用いただいております。こんな施設を利用したいと思う方は、空き状況を確認の上、ご

施設利用人口の状況

施設名	2	3	4	5	6	7
多目的グラウンド	38,506	40,365	43,345	42,740	41,100	39,536
テニスコート	4,366	4,434	4,748	4,584	4,320	6,178
屋内ゲートボール場	4,374	4,172	4,191	5,075	4,241	4,515
あずさ会館	4,462	3,851	9,499	10,817	13,729	18,282

予約下さい。尚、当施設の昨年までの利用状況を一表にしてみましたのでご覧下さい。

● 屋内ゲートボール場 利用案内

当施設では屋内ゲートボール場二面を設け、一般に貸出ししています。

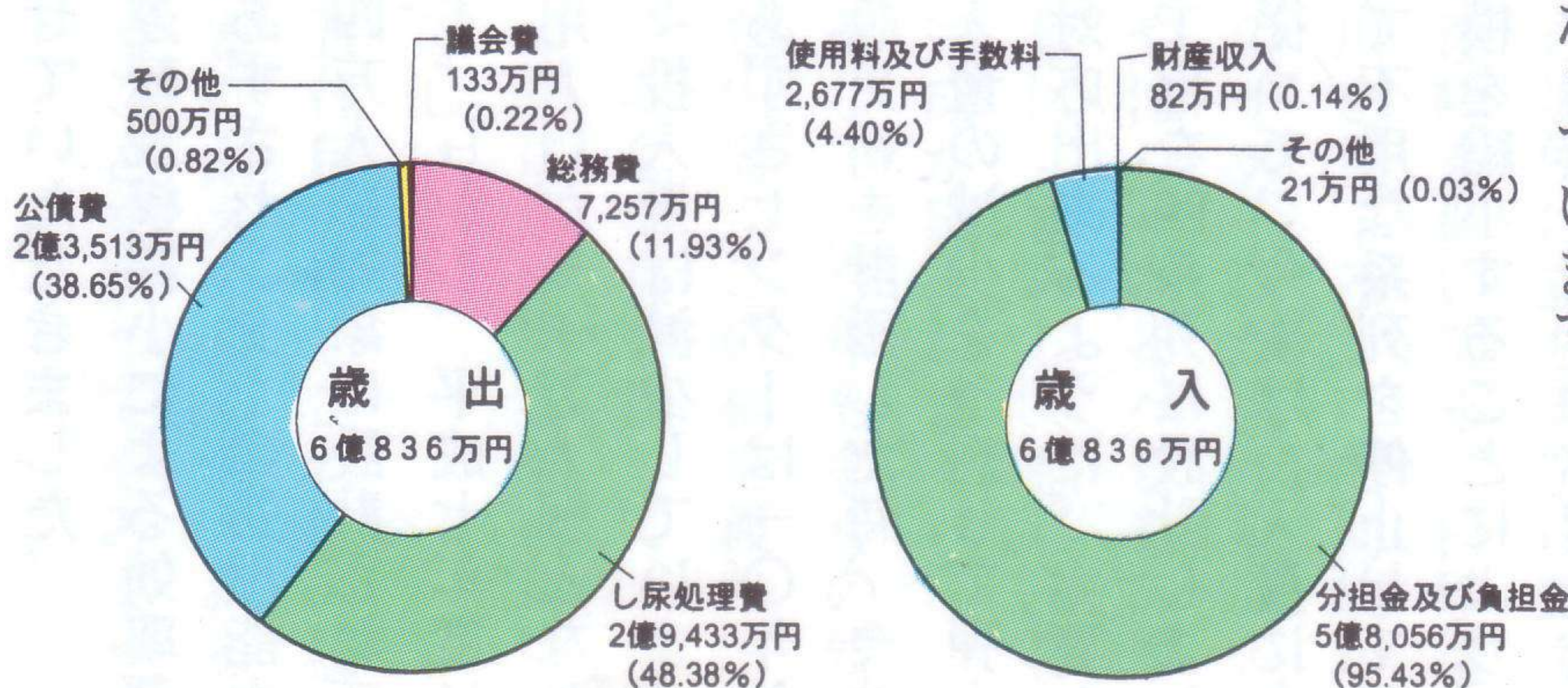
悪天候に左右されることなく快適に楽しめます。

各地区のゲートボール愛好家の皆さんのご来場をお待ちしております。

● 平成九年度予算の概要

予算額は、歳入歳出とも、六億八百五十六万円で前年度対比一・八%の減となっております。構成市町村からの分担金が全体の九五・四%でほとんどを占めています。し尿等の投入料や、運動公園の使用料等で四・四となっております。

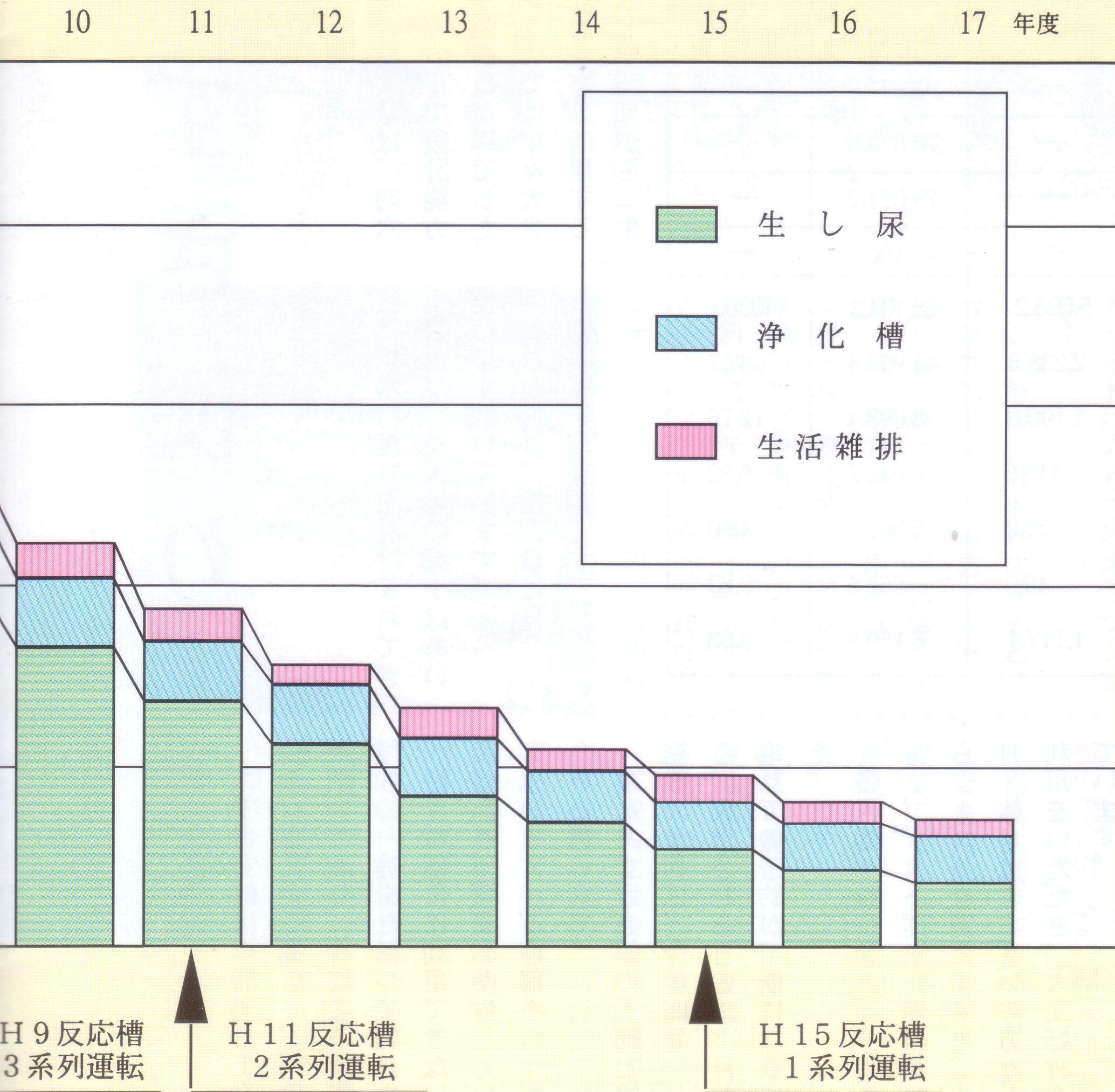
予算額の約半分がし尿を処理するための費用です。運動公園の経費や一般的な事務費が約一三%、施設を建設した際の借金の返済が約三九%となっております。



あずさセンターの運転管理体制見直しへ

下水道整備に伴い投入量減少

実績値と将来推計



昭和六三年度ピークに達したあずさセンターへのし尿の投入量は、構成市町村の公共下水道等の整備に伴い平成元年以降減少に転じ、処理能力に余裕が生じはじめました。

このため、あずさセンターでは「生活雑排水汚泥」等処理可能な一般廃棄物を新たに受け入れ、施設能力の有効活用を図ってきました。

しかし、水洗化のスピードはこれを上まわり、更に余裕が大きくなって運転効率の低下が心配される状況になってきました。平成七年度に実施した向こう一〇年間の投入量の推計結果からも減少傾向は明らかであり、将来を見通した運転管理体制の見直しが必要となつています。

この場合、見直しの要点として次の三点があげられます。

尚、見直しの要点を解り易くするために「(株)あずさ運送店」の経営に例えた作り話を付記

させていただきました。

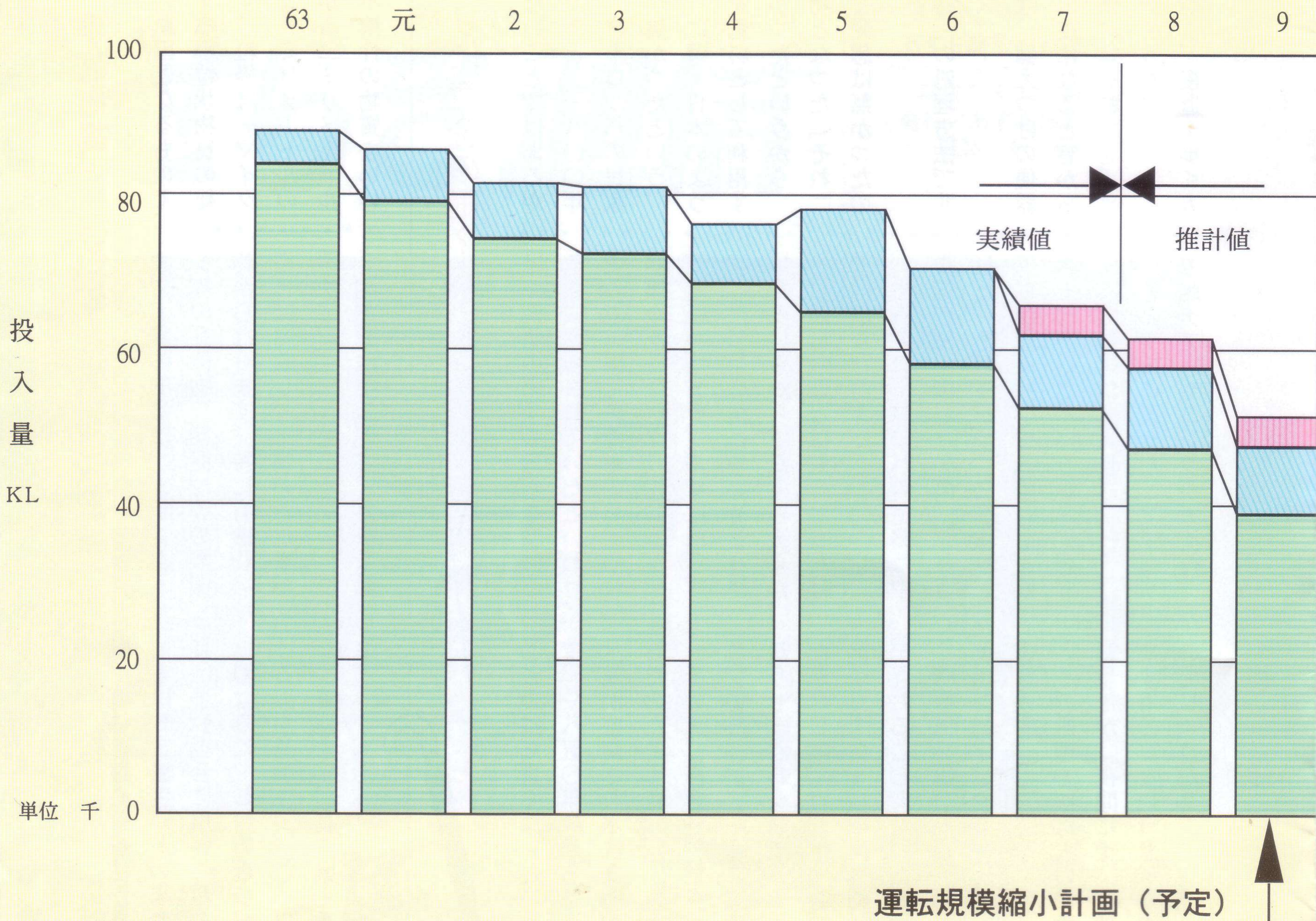
(1) 運転規模縮小による効率運転
あずさセンターの処理能力は一四万人を対象に設計されています。しかし、平成七年度には利用人口が一万人弱となり、年々投入量は減少しています。

あずさセンターは一〇年前に施設更新を計画した時、今日の投入量の減少を予想して弾力的に対応出来るように、主要な処理工程を四系列に設計しました。従つて、今後は投入量に合わせて不要な系列を停止して運転規模を縮小することにより、経費の節減を図り効率運転をしていきます。

この場合、これ迄にも年末年始の連休時など、し尿投入が無い場合は短期間ではありますが系列を減らして運転規模を縮小する運転を行つており、処理水質や臭気公害等に関する心配はありません。

例え話し①
『(株)あずさ運送店』は、創業当初一〇トントラックでも運び切れないほどの積荷がありました。ところが、航空便等の発達によりトラック輸送分が減少してしまい、今では七〜八ト

投入量の推移 :



ン程度のトラックで間に合う仕事量になってしまいました。でも幸いなことは、当初一〇トントラック一台を買う代わりに、二トン半の小型トラックを四台備えておきました。ですから、これからは積荷の量に見合わせ、不用になったトラックは随時廃車することで経営規模を縮小し、経費の節減を図っていくと考えています。』

(2) 施設の老朽化と経済的整備
あずさセンターの施設は、一括更新から九年を経過し、基幹的施設等の老朽化が進行しつつあります。

一方、この施設は一〇年二〇年先の環境基準(水質、悪臭等)にも対応出来る優れた性能を持っています。

そこで、オーバーホール等の整備を念入りに行い、老朽化した基幹的施設を個々に更新していくことで、将来的にも一括更新を行なわない方向で経済的施設整備を行っていきます

例え話し②
『(株) あずさ運送店では、前回のトラック買替えの時一〇年二〇年先の公害基準を見越して、それをクリア出来るエンジン性能を持ち、足まわりも良く更に燃費の優れた車種を購入しました。』

そこで、仕事量が減少して経営が厳しくなっていく中で、車検整備を念入りに行い、古くなった部品を早目に取り替えるなどして、現在のトラックを大切に使用していくことで、新車の買替えは、しないことにしました。』

(3) 運転管理体制の見直し
運転規模の縮小に合わせて、要員数の見直しを段階的に行っていく必要があります。

このことについては、今後構成市町村に指導をお願いしながら、適正な運転管理体制を作っていきます。

例え話し③
『(株) あずさ運送店の経営者にとって、経営規模縮小に伴いトラック台数を減らすことで浮いてくる運転手さん達の処遇は大きな問題です。』

そこで、運転手さん達の将来について、何とか安定した新しい仕事に就けるように異業種の取り込みや、同業他社との合併等善後策について、検討を続けています。』

せせらぎ辞典

『SS・浮遊物質』 (Suspended Solids)

水の濁りの原因となるもので、水中に浮遊する小粒状物質の総称であります。粒径は一マイクロメートル（一ミリメートルの千分の一）から二ミリメートルの範囲で、不溶性の物質をい

ます。具体的には、プランクトン等の有機物及び泥粒等の無機物からなります。特に有機物の場合は腐敗し、水質の悪化を招きます。

測定方法としては、ガラス繊維

『夜のパリは黄金の雨?』

信じられないことではあるがもの本によると、一八〇〇年代前半まで、ヨーロッパの民家にはトイレが無かったという。

ヨーロッパには、日本のように「し尿」を肥料として利用する考えはなかったというから、無用の廃棄物となった「それ」を留めておく発想は無かったのでしよう。

では、「それ」の処理方法ですが、これがスゴイ。

各家庭では、備えつけの便器に用を足し、夜になると窓から家の前の道路に「それ」をポイしていたのだそう。

そんなだから、夜道を歩く人

は「黄金の雨」の洗礼を受ける危険にさらされていたといわけ。でも万一洗礼を受けても、やれ賠償金だ、やれクリーニング代だといったトラブルにはならず「お互いさま」でことを済ませていたというから、なんと大らかか。しかし、ことは大らかさだけでは済まなかった。

当時のヨーロッパの道路は中央部が凹んでいたの、ポイされた「それ」がここに溜まり、馬車を通るたびに「それ」をハネ上げていたというから、想像するだにスゴイ光景。

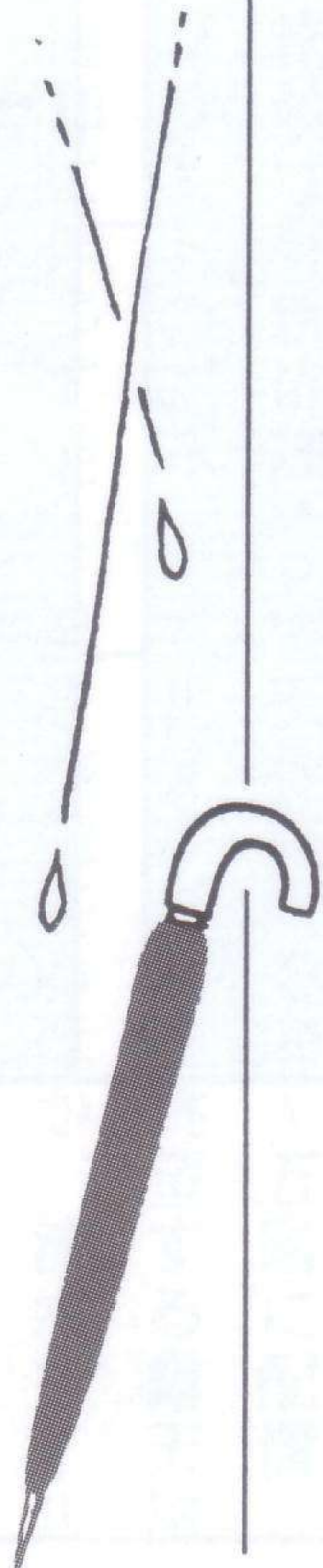
そんなであるから、アチコチで腸チフスやコレラが大流行。

これではたまらないというわけ、一八五〇年代から急速に下水道が整備され水洗文明が発達したのだそう。

その点、貴重な肥料として「それ」を有効利用してきた（理想的なりサイクルシステムと思うのだが）日本では、トイレの水洗化がヨーロッパに比べ約一〇〇年遅れることになったわけ。

そう云えば、「し尿」のことを英語で「Night Soil」（夜の土）と書きます。

その処理方法は大いに荒っぽかったが「夜間に土（自然）に戻すもの」という意味があったのでしようか？



ちよっこ一服

「マヒワ」 野鳥シリーズ(2)

すっかり春めいた原野を訪れると、新緑の草木に混じってススキ、マツヨイグサ、ムカシヨモギなどが立ち枯れたまま残っています。なぜ立ち枯れたまま冬を越すのか不思議に思いますが、マツヨイグサなどは、その種子を小鳥たちに散布してもらうため、雪や風に抗いながらもじっと立ちつづけているのです。

芽するという具合です。種子を大量につくりだし、形が小さいことは種子の散布を手伝うマヒワなどの鳥に対して進化した結果だと思われます。

マヒワは三月ともなると雄は頭の黒と翼などの緑との対比が一層鮮やかになり、独得の複雑な囀りをするようになります。

マヒワはシベリアの森林帯で繁殖し、初秋大群で日本に渡ってくるスズメより小さな冬鳥です。渡来した当初はスズメなどの球果を食べていますが、これを食べ尽くすと平地に降り、ハンノキやマツヨイグサの種子をもつばら食べるようになります。

昔はこの美声を楽しむため飼鳥にされることが多く、軒下に吊されたマヒワの鳥籠をあちこちでよく見かけたものです。

